

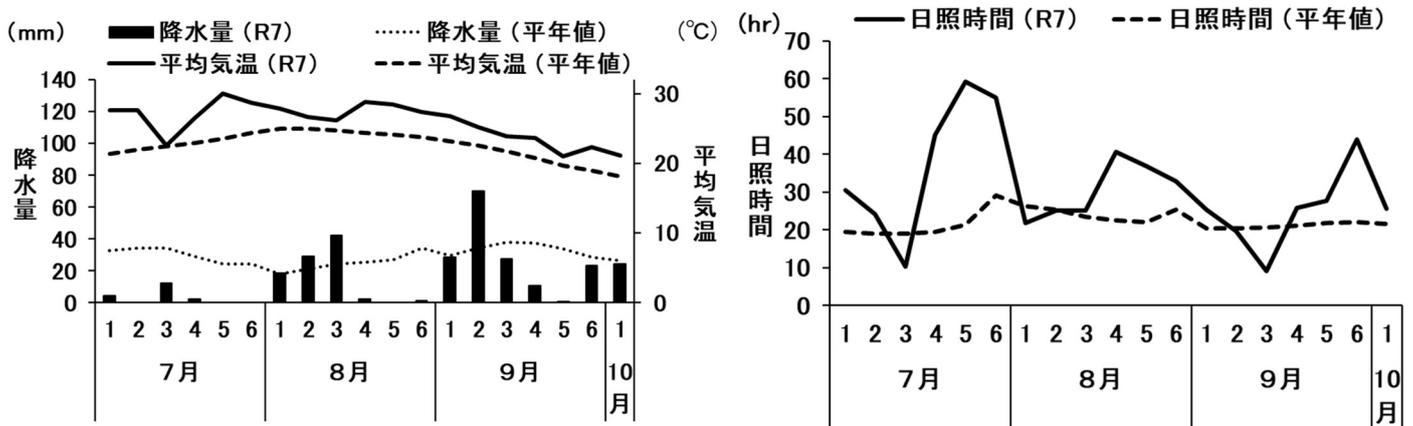
# 仙台大豆作情報

令和7年度第4号  
 令和7年10月10日発行  
 宮城県仙台農業改良普及センター  
 TEL 022-275-8410

## ○収穫作業のポイント

- ・汚粒を防ぐため、収穫前に雑草や青立ち株を抜き取りましょう！
- ・適期収穫、適切な乾燥調製で上位等級に入る品質を確保しましょう！

## 1 気象経過（7月第1半旬～10月第1半旬）



○気 温：7月以降、平年より高く推移しました。

○降 水 量：7月は平年と比べて少なくなりました。開花期を迎えた8月上旬から8月中旬、9月上中旬は降水量が多くなりました。

○日照時間：7月中旬、9月中旬は平年よりも少なくなりましたが、多い傾向で推移しました。特に7月下旬、9月下旬は多くなりました。

## 2 生育概況（標播）

表 生育調査ほ調査結果（9月1日時点）

品種 (地区)	調査年	播種日	開花期	主茎長 (cm)	主茎節数 (節/本)	分枝数 (本/本)	成熟期
タンレイ (宮城野区岩切)	本年	6月20日	8月4日	44.4	12.9	3.4	
	前年	6月16日	8月2日	43.3	11.3	0.4	10月18日
	平年	6月11日	7月29日	60.4	13.3	2.2	10月19日
ミヤギシロメ (若林区荒井)	本年	6月18日	8月8日	84.4	17.2	3.3	
	前年	6月12日	8月5日	87.7	15.3	3.4	10月25日
	平年	6月11日	8月4日	78.9	15.7	4.1	11月1日

## <タンレイ>

- ・ 平年と比べて主茎長が短いものの、主茎節数、分枝数は多くなりました。
- ・ 10月7日時点で、チョウ目幼虫や吸蜜性カメムシ類が発生しており、莢や子実などに食害が見られたため、品質への影響が懸念されます。

## <ミヤギシロメ>

- ・ 主茎長が前年よりは短いものの、蔓化や降雨の影響で一部倒伏していました。
  - ・ 生育の前半はべと病が確認され、10月7日時点でチョウ目幼虫の発生、莢の食害が見られたので、品質への影響が懸念されます。
- ・ 10月7日時点で、どちらのほ場でも葉の黄化が進んでおり、落葉が始まっています。完全落葉後15日～25日で成熟期に入るとされているので、10月下旬～11月上旬頃には成熟期を迎えると推測されます。



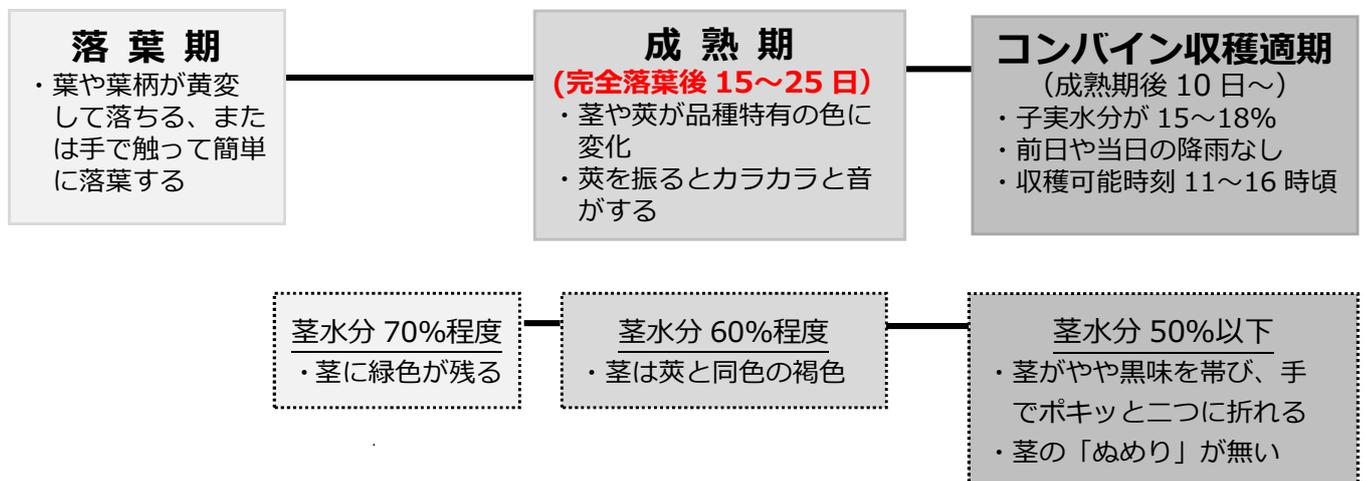
写真1 タンレイの様子 (10月7日)

写真2 ミヤギシロメの様子 (10月7日)

## 3 収穫作業のポイント ～適期収穫と汚粒対策～

コンバインによる収穫適期の判定は、子実と茎の水分がポイントです。茎・莢の色や莢内での子実の振動音、茎の切断音など総合的に判断する必要があります。大豆の成熟経過を以下の通りとなりますので、ほ場ごとの生育ステージを確認しながら、作業計画を立てましょう。

### 【大豆の成熟経過とコンバイン収穫適期】



◎大豆のコンバイン収穫において問題となるのは「汚粒」です。以下の点に注意しながら、収穫作業を進めましょう。

(1) **収穫前に雑草や青立ち株を除去し、汚粒の発生を防ぐ**

茎や実の色がある雑草（イヌホオズキなど）、大型で乾いていない雑草（アメリカセンダングサなど）、青立ち株は茎水分が高く汚粒の発生原因になります。収穫前に可能な限り抜き取りましょう。

(2) **適期収穫を行う**

コンバインによる収穫判断は、子実水分や茎水分を目安に行いましょう。

- ・子実水分が高い（20%以上）→つぶれ粒等の発生
- ・水分が低い(14%以下) →割れ豆等を主体とした損傷粒が多く発生する
- ・茎水分が高い →汚粒発生の原因

茎水分の高い株について、莢が著しく少ない青立ち株の場合、雑草と同じように抜き取る必要があります。一方で、生育むらによって水分が高い場合や莢が成熟していても茎が緑色のままで、莢数が普通～多い場合は、可能な限り茎水分の低下を待ってから収穫しましょう。

(3) **収穫作業は、午前 11 時～午後 4 時頃**

収穫時間によっても穀粒損失と汚粒の発生割合は変化します。莢や子実水分が高まる時間帯を避け、午前 11 時から午後 4 時頃を目安に作業しましょう。前日に降雨があった場合は、莢の水分状況を確認してから作業をしましょう。

(4) **作業速度を抑えて、土を掻き込まない**

汚粒発生の一番大きな原因として「土の掻き込み」があげられます。約 10cm 以上の刈り高さを確保するとともに、作業速度はゆっくりとし、コンバインの刈刃が土を掻き込まないように注意しましょう。

特に「生育が旺盛で作物量が多い」、「倒伏している」などの場合はさらに作業速度を抑えて刈りましょう。土がヘッダ部に入ったら速やかに作業を停止し、ヘッダ部の土や莢の除去など掃除を行うことが重要です。

## 4 乾燥作業

県産大豆は大粒種が多く、吸水性にバラツキが出やすくなります。乾燥調製作業では大豆の吸水性に大きな影響を及ぼす穀粒水分と粒揃いが、最も重要なポイントです。仕上がりは、被害粒や異物がなく、子実水分は 13%程度で、よく成熟した粒揃いの良いものを目標に調整しましょう。

(1) **こまめな水分測定**

ほ場によっては、子実水分のバラツキが大きい場合があります。荷受時、乾燥時にこまめに水分測定を行いましょう。

## (2) 適正な乾燥温度

- ・循環式乾燥機等による加温乾燥の場合は、送風温度を 30℃以下とし、裂皮粒やしわ粒の発生を抑えましょう。
- ・平均水分が 18%を超える場合は、さらに送風温度を下げ乾燥しましょう。

## 5 東北地方 1 か月予報 (令和 7 年 10 月 9 日 仙台管区气象台発表)

<予報のポイント>

- 向こう 1 か月の気温は、暖かい空気に覆われやすく、高いでしょう。
- 向こう 1 か月の降水量は、低気圧や前線、寒気の影響を受けやすい時期があるため、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

### 秋の農作業安全確認運動 ~令和 7 年 9 月 1 日から 11 月 30 日まで~

農作業安全確認運動テーマ

#### 『徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策』

県内における過去 10 か年の農作業死亡事故は、農業機械作業に係る事故が全体の約 8 割を占め、そのうちトラクターによるものが半数を超えます。

◎以下の対策を徹底しましょう。

【事故防止対策】

- ほ場周辺の危険箇所の確認・危険回避行動の実践  
(危険箇所での減速、危険箇所の迂回ルートの設定など)
- 危険箇所の改善(道路端や曲がり角の草刈り、路肩の補強など)

【被害軽減対策】

- シートベルトとヘルメットの着用
- 安全キャブ・フレーム付きトラクターの利用

